

1. 評価結果概要表

平成 21年 3月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	2072400480
法人名	社会福祉法人 麦の家
事業所名	認知症高齢者グループホーム「麦の家・ぶどうの木」
所在地	長野県上伊那郡中川村大草4559番地 (電話) 0265-88-4069

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年3月17日

【情報提供票より】( 21年 1月 20日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 8月 31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	14 人	常勤7人	非常勤7人 常勤換算10.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造一部鉄筋コンクリート 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	家賃に含む 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要 ( 1月 20日 現在)

利用者人数	12 名	男性 名	女性 名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	3名	要介護4	3名
要介護5	2名	要支援2	
年齢	平均 82.2 歳	最低 61 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中川村南向診療所 昭和伊南総合病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中川村のほぼ中央に、役場、保健センター等があり、そこより700m程山手の高台、大草地区中組にグループホームはある。周辺は家々が点在し、自然豊かな環境の中、事業所から雪を戴く中央アルプスの山々が天竜川を隔てて真向かいに、さらに中央自動車道、周辺の市町村の町並みが一望でき、「威容を誇る、その偉大な自然の神秘さの前に…思わず手を合わせる」と言った松本栄二理事長の言葉そのままに、しばし時を忘れてしまう思いがあった。建物は山小屋風を思わせる多角形の2階造りで個人棟が4棟、夫婦棟が1棟、食堂兼用の共同棟が2棟あり、利用者にとっては居室ではなく家である。家はそこで生活する人にとって生き生きした行動を安心して何時でも繰り返す事の出来る拠り所であるという視点に立って、職員と共に、地域と共に暮らしているという感覚で、のびのびと豊かな思いで、暖かで家庭的な日々が流れていくように支援していた。認知症になっても心豊かにその人らしく暮らしていけることを証明していた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題は8項目あったが、そのうち市町村との連携、災害対策、居室への配慮については改善への取り組みをしているが、さらなる工夫を期待します。残りの5項目については改善されていることを確認できた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で取り組み、評価に対する経験も多くなり、その意義についても理解し共有化が図られていた。改善課題等には真摯な姿勢で、具体的改善につなげるよう取り組んでいた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	年6回開催し、構成委員には地域を積極的に動かすことの出来る代表者が加わり、充実した会議となっている。地域づくりの核として、また認知症理解の発信の場としての会議の活用も視野に入れて、地域からの理解や支援を得るために積極的に取り組んでいる。無断外出者の捜索に多くの地域の方が協力してくれたことを契機にして、地域との結びつきも良くなり、運営推進会議では、地域からの率直な意見や思いを聞ける素地が出来上がってきている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	入居にあたり、週1回は面談に来ることを条件にしていることで、ご家族との接触の頻度は多く、思いや意向を充分に聞くことの出来る関係となっている。家族会も年3回開催し、家族同志の話し合いの場が設けられ、家族としての悩みやこれまでの経緯なども話せ、同じ思いを持つものとしての共感が得られるとともに、事業所と共に利用者を支える一員としての自覚にも繋がっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の祭りや地区総会・集会、いきいきサロン等へ出席し、さらには定期的に保育園・小・中学生との交流を行い、地域との良いつながりを持っている。近隣地域への散歩や買い物時の挨拶、野菜等のおすそ分けを頂くなど地域住民とは顔馴染みとなり、親しい交流を行っている。又、災害時の防災協定も締結している。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>1. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域のニーズに応えながら、地域作りや認知症理解を深めていくこと。認知症のお年寄りによって活かされている集団としての家族や社会という見方をして、そのつながりを守りながら私たちが変わっていかうとすること。それらを事業所独自の理念としている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフミーティングや研修会等で話があり、スタッフ相互の意見交換が活発に行われながら、理念の共有化が出来るように努めている。職員と利用者との会話や交流から理念が実践されていることを感じた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りや地区の総会・集会、いきいきサロン等への出席、定期的な保育園・小・中学生との交流、近隣への散歩や買い物時の挨拶、時には野菜等のおすそ分けなど地域住民とは顔馴染みとなり、親しい交流が出来ている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価も6回目になり、その意義も十分に理解し、自己評価には管理者を含めて全職員で取り組み、「振り返り、次につなげる」「課題、問題、失敗から学ぶ」という姿勢で臨み、改善課題には真摯な姿勢で具体的な改善に繋がるように取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年6回開催し、構成委員には地域を動かすことの出来る代表者も加わり、充実した会議になっている。この会議を地域作りの核として、また認知症理解の発信の場としても活用しながら、地域の理解や支援を得て、それらを土台にサービスの質を向上させるよう積極的に取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>村役場の担当者と事業所の現状や課題について、十分な話し合いを重ねながら相互理解を深めていくよう努力中である。</p>		<p>事業所の理想とするあり方と行政で決められた法令等の基準との狭間により拒まれたり、救われるべき利用者やご家族の思いの実現に向けて、法令等で運用できる範囲をさらに精査して、村との連携を深め、利用者本位の環境が整うよう取り組まれることを望みます。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居にあたり、週1回は面談に訪れることを条件に掲げているので、その機会に暮らしぶりや健康状態等の報告をしている。年3回の家族会もほぼ全員のご家族が参加しており、ご家族との連携は充分に出来ている。家族会ではご家族だけで話し合う機会も設けている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>週1回の面談や年3回の家族会を通じて、ご家族との良好な繋がりがあり、利用者を支えていく一員としても位置付けているので、ご家族の思いや意向を充分に反映させてサービスが行われている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所が、利用者に接することが楽しいと前向きに取り組んでいる職員構成のため、これまでに異動はほとんどなく、利用者への異動によるダメージは少ない。これからもこの体制が続くよう希望するとともに、今後起こり得る異動に対して、利用者へのダメージを防ぐ配慮を検討することを望みます。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者等による個別スーパービジョンやグループスーパービジョンの現任研修があり、外部への研修も内容や職員の希望を考慮する中で出席させて、職員教育には積極的に取り組んでいる。又、通信教育などの法人独自の育英資金制度を設けるなど、職員の側に立った取り組みをしている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>月に1度、事例研究会を行い、地域の他の事業者の意見を聞いたり勉強の機会を設けている。県内の他のグループホームへの交流研修などは自らの位置を確認できたり、次なるサービスを探し出すことも出来るので、周辺地域にこだわらないネットワーク作りに期待します。</p>		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に「お試し」として日帰りや宿泊をして頂き、利用者の望む生活が出来るかどうか、利用者、ご家族、事業所の三者で十分に話し合っ、納得した上での利用となるよう努めている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の喜怒哀楽に関心を寄せながら、コミュニケーションの機会を利用して、利用者が生活の中心になるよう日常生活の過ごし方に工夫をしている。利用者や職員との支え、支えられる関係や利用者の思いに共感し理解する関係は出来ている。</p>		<p>利用者の本来の個性や力、どう暮していきたいかの思いの実現のためには、職員と利用者との関係に留まらず、利用者同志の関係作りも大切である。利用者同志が協力したり、自らの思いを発言したりする機会となるグループワークなどを、積極的に行うことを期待します。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の入居前の様子、日々の生活や関わりから絶えず暮らしの把握をし、利用者の思いや意向を知るように努めている。困難な場合はご家族に聞くとともに、利用者の表情、態度、行動より読み取るようにしている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>課題分析はセンター方式を活用し、介護計画の原案作りは利用者の担当職員が利用者やご家族の思いや意見を聞いて行い、ケアマネージャーを介して、理事長を含めた全体会議で意見交換し作成している。計画の目標が身体介護に偏らないよう、精神面や寄り添う介護への配慮をするよう指導している。介護と看護の連携のあり方に若干の行き違いが生じている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月に1度は介護計画の評価、見直しを行い、心身の状態に変化のあった場合はその都度話し合い、現状に即した計画が作成されていた。安定している利用者には月に1度程度はケア関係者の最近の情報や気付き、ケアのアイデアを集めて見直しの検討をすることを望みます。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護職員を配置し、医療連携体制を活かして、医療処置をしながらの生活の継続や終末期への対応をしている。月1回往診を受けられる支援、受診の付き添い、早期退院への努力など多機能性を活かした支援が行われている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、利用者やご家族の了解を得ながら事業所の協力医療機関として、受診等の支援をしている。医師の月1回の往診や近所に協力医療機関の看護師が居て夜間の対応も出来ることが、利用者やご家族の安心に繋がっている。受診の付き添いは原則ご家族の対応としているが、状況によっては職員が代行することもある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期のあり方についてはご家族と十分に話し合い、医師や看護師との連携を図っており、対応や認識の共有化が出来ている。重度化や終末期の対応指針はご家族や医師、職員などの関係者相互の思いの行き違いを無くす上で重要なものとなるので、基本的な対応指針を作成することを望みます。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員間で注意しあいながら、利用者の尊厳を傷つけるような言動のないよう努めている。個人情報の秘密保持については利用契約に規定されている。ただ、事業所内で利用者の書類が他の利用者の目に触れることもあるので個人記録の保管への配慮については今後の課題になっている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースより職員のペースによって日々が展開して満たされるべきニーズの支援が困難な時があるが、昼食後利用者の気持ちに添って車椅子散歩に行ったり、桜を見に眺望のよい庭に出たり、近所への散歩に行ったりと、その人らしい暮らしを支える取り組みは出来ている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の好み等は把握できており、食卓を拭いたり、配膳や片付けは利用者の出来る範囲で職員と共に行い、一緒に食事をしている。食材は基本的には生協より取り寄せているが、スーパーに買出しに行ったり、おやつのお買い物をしたり、お茶の時間には好きな物を選んでもらったりと食が楽しいものとなるよう支援している。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は週2～3回、午前・午後の選択をして頂き利用できるようになっている。重度化のため清拭対応をしている方もいる。職員の勤務体制もあり、入浴する曜日等を聴いて相談しながら個別にあった楽しむことのできる入浴支援までには至っていない。入浴時間帯だけのパート増員などの検討を望みます。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>鴨の餌切り、おやつ作り、食器拭きなど利用者の負担にならないよう、出来る範囲で役割を担ってもらっている。外出の機会を増やししながら気晴らしになるよう努めている。居室である家から食堂である共同棟まで、周辺に咲く花々を見ながら歩いて行くことは楽しみや気晴らしになっていると感じた。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>保育園に遊びに行ったり、近隣地域への散歩、中庭に出て移り行く季節を肌で感ずるなど気分転換や五感の刺激になるような外出支援が出来ている。年に1度は家族会の協力を得て善光寺に行っている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>鍵を掛けないことを心掛け、鍵を掛けることの弊害を理解しケアに取り組んでいる。プライバシーに配慮しながら所在や様子を把握し、職員間で情報の共有化を図り、安全への配慮をしている。その気になれば何処からでも出られる隙間があるので、入り口の門は外部との境と認識した方が良かったと感じた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>事業所で計画する防災訓練は年1回、心肺蘇生法も年1回行っており、その他に地域主催の訓練に参加している。無断外出の捜索を契機に地域との災害時の協力が結ばれ、災害対応のマップ作りを一緒に行うなど地域からの協力を得られる体制ができています。夜間は管理者等が隣に住んでいることで不安は少ないが、夜間想定訓練を年1度は実施することを望みます。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>昼食作りは1名の調理担当者が行い、栄養バランスが安定するため、献立作りは栄養士の指導を受けている。一人ひとりの心身の状態や好みを考慮して、それに応じた水分量や食事の摂取量の支援が行われていた。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂、居間、台所が兼用となっている共用棟は、木の温もりを感じ、窓からの景色も季節に応じた変化を眺められ、重量感ある安定した食卓など安心して、居心地よく過ごせるようになっていた。調査日には季節にふさわしい雛飾りがあり、職員から投げ掛ける話を中心に話題を広げながら、なごやかに過ごしていた。家から食堂に来たという雰囲気があり、地域で普通に生活している錯覚に陥る思いがした。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は部屋というより家の趣で玄関・靴脱ぎ場があり、衣類等を収納する括り付けの戸棚、ベッド、台所、風呂、トイレが備えられていた。利用者によっては、仏壇、飾り物、自らの書等の作品など馴染みの物を置いてあり、窓からの眺望もよく住居としての雰囲気が感じられ、居心地よく過ごせる空間になっていた。居室の清掃は、清掃日等を決めて実施するなどの工夫を望みます。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。